

**HAMACUL
ART PROJECT
ART 2024**

ハマカルアートプロジェクト2024を終えて

原子力災害による影響を大きく受けた、福島県・浜通り地域。「ハマカルアートプロジェクト」は、芸術・文化の力によって地域の活力を生み出し、福島の復興に繋げていくことを目指しています。2年前、経済産業省の有志職員により立ち上がり、様々な芸術家の滞在制作を支援してきました。

芸術・文化の力とは何か。1つには、表現を通じて、人々の感情に寄り添ったり、勇気づけ、活力を引き出したり、連帯感を生んだりできることだと思います。また、「いま」を残す記録の側面や、独自の目線で世界の魅力を発見・創出する力もあるのではないかと思います。

今年度滞在制作された18組の学生・芸術家の活動を拝見する中で、まさにそうした力で地域の熱量が高まっていく様子を目の当たりにしました。若い世代の視点を通じて見える地域の魅力。芸術家が地域と協働し生まれる繋がりや創造力・活力。作品として「今」の地域が残る・伝播することの意義。それらをひしひしと感じ、この先に繋がる未来を想い希望を感じる一年間でした。

今後ますます、芸術家の滞在制作を契機とし、一度は失われた人々の繋がり鮮やかに芽生え、新たな物語が多様に紡がれることで、地域に活力が溢れていくことを願っています。

経済産業省 福島芸術文化推進室
長縄 あかり

目次

ハマカルアートプロジェクト2024 概要 P.3～4

プロジェクト紹介 P.5～22

学生制作型

福島浜通りシネマプロジェクト（株式会社キネマ旬報企画） P.5

浜通りの「台」滞在制作プロジェクト（株式会社アール・エフ・エー） P.6

Artists in FUTABA 2024（合同会社toten） P.7

鮭のぼりアートプロジェクト（福島大学芸術による地域創造研究所） P.8

浪江学生デジタルアート道場（ガッチ株式会社） P.9

滞在制作型

土地の時間をめぐる滞在制作事業（秋元菜々美） P.10

[Dear KAWAMATA]（松本律子） P.11

Dialogues between Winds and Books：風と書の対話記（国立大学法人東京大学大学院情報学環 開沼博研究室） P.12

アーティストインレジデン集（川口商店） P.13

旅するたたき場in楢葉町 即興演劇の上演とWS事業（旅するたたき場） P.14

震災復興の「いま」をきりとる（一般社団法人とおがったプロジェクト） P.15

葛尾村の百徳（チーム百徳） P.16

コレクティブ・イメージ（折田千秋） P.17

「まいにちの舞台」プロジェクト（久留飛雄己） P.18

福島県12市町村ロケ映画プロジェクト川内村編～映画制作&ワークショップ～（シネマ健康会） P.19

人工知能を用いた映像と楽器自動演奏装置の展示（大久保雅基） P.20

ロココ・キッチン（株式会社植田印刷所） P.21

映画『そこにあるべきものたち』浜通り縦断試写上映会（株式会社ベーシックシネマ） P.22

専門家からの総評 P.23～24



ハマカルアート プロジェクト2024

ハマカルアートプロジェクト2024は、福島県の浜通りを中心とした福島12市町村^{※1}において、芸術家や学生の創造的活動や、創造的活動の運営を行う事業者を支援するプロジェクトです。ジャンルを問わず、アーティストやクリエイターが地域を舞台に様々な活動を行い、地域の歴史、伝統、生活、文化の再発見、住民との交流を生み出し、地域への創造的な価値が生み出されることを目指しています。

今年度は、学生が主体となって行う創造的活動を支援する「学生制作型」と芸術家が一定期間地域に滞在して行うアート活動を支援する「滞在制作型」の二種類を実施しました。

※1 東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い避難指示等の対象となった、福島県田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村及び飯館村を指します。

実施日程

【公募期間】

- 2024年6月28日～7月17日 学生制作型1次公募期間
2024年7月8日～8月7日 滞在制作型1次・学生制作型2次公募期間
2024年8月20日 マッチングツアー実施
2024年9月13日～10月2日 滞在制作型2次公募開始

【採択者活動期間】

2024年8月末～2025年2月14日 採択事業者活動期間

【事務局主催イベント】

- 2024年9月24日 ハマカルラーニングセッション開催
2024年11月28日 ハマカルトークイベント vol.1「福島にアートで向かう」開催 @東京都
2025年2月8日 ハマカル活動報告 HAMADOORII3 主催フェニックスプロジェクト第1期報告会 @福島県いわき市
2025年2月11日 ハマカルトークイベント vol.3「福島をアートで映し出す」開催 @東京都

アーカイブ

ハマカルアートプロジェクト2024では、事業の目的・背景理解、また関東圏内での事業周知のため、各回ゲストをお招きし、イベントを開催しました。イベントの一部をアーカイブで公開していますので、下記の二次元バーコードからご覧ください。



ハマカルトークイベントVol.1「福島にアートで向かう」



2024年11月28日@東京都大手町3×3LabFutureプロジェクトのキックオフイベントとして実施。ゲストに建築家藤村龍至さん、社会学者開沼博さん、作家川内有緒さんをお招きし、福島でアート活動を行う意義・意味について議論しました。



ハマカルトークイベントVol.3「福島をアートで映し出す」



プロジェクトの成果報告イベントとして実施。ゲストに映画監督である永田琴さん、板橋基之さん、松本卓也さん、芸術家である藤浩志さんをお招きし、地域で映画を撮ることについて議論しました。

実績

- 応募総数 43件
活動事業者数 18事業者
実施地域 12市町村全域
(福島県田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村及び飯館村)
滞在アーティスト / 学生総数 107名(滞在制作型41名、学生制作型66名)
地域内での交流人数 3,415名(主催イベントの参加人数、イベント出店時のイベント参加人数等の延べ人数)

福島浜通りシネマプロジェクト2024

実施者 株式会社キネマ旬報企画

活動地域 双葉町 ジャンル 映画



本年度で3年目の事業。全国から学生とプロの映画監督やスタッフを募集し、双葉町を舞台にしたオリジナルの短編映画制作ワークショップを開催しました。全国から集まる12名の学生が2チームに分かれて5日間でロケハン、インタビューによる脚本づくりから撮影、編集に至るまで映画作りに関する全ての工程を経験。ぜひ学生が捉えた双葉町の今をご覧ください。

10月下旬 学生リーダーズワークショップ開催

11月上旬 スタッフ全体ミーティング

11月中旬 映画づくり体験開催

11月中旬 映画づくり体験で制作した映像作品の上映発表会の開催



事業の展望

活動を始めて3年目、地元の方とも顔や名前が互いに認識できるようになってきました。改めて地域に入り込むには時間が必要だと感じます。でもまだスタート地点に立ったばかり。今後は地域の方と共に創作する時間を増やしていくフェーズに入ります。我々は当初「10年」という目標を掲げ、変わりゆく町、変わらない町を映画を通して記録していこうと考えました。まだ先は長いですが、地域の方が中心となって創作活動を行う中で、新しいまちを創るチームも出来上がっていくと考えています。

参加学生からの声

これまでのプロジェクトは静寂に包まれた町で実施されていましたが、今回は駅前で遊ぶ子供たちの声が響いていました。かつて更地が広がり立入禁止だった場所で子供の声が聞こえるのは衝撃的でした。彼らに協力してもらい映画に出演していただきました。地域の方々との繋がりを作品に残せたことに感動しました。また学生リーダーとして関わることで、一般参加者では気づけなかった難しさを経験し、全体を統括する視点を持つことができました。

浜通りの「台」滞在制作プロジェクト

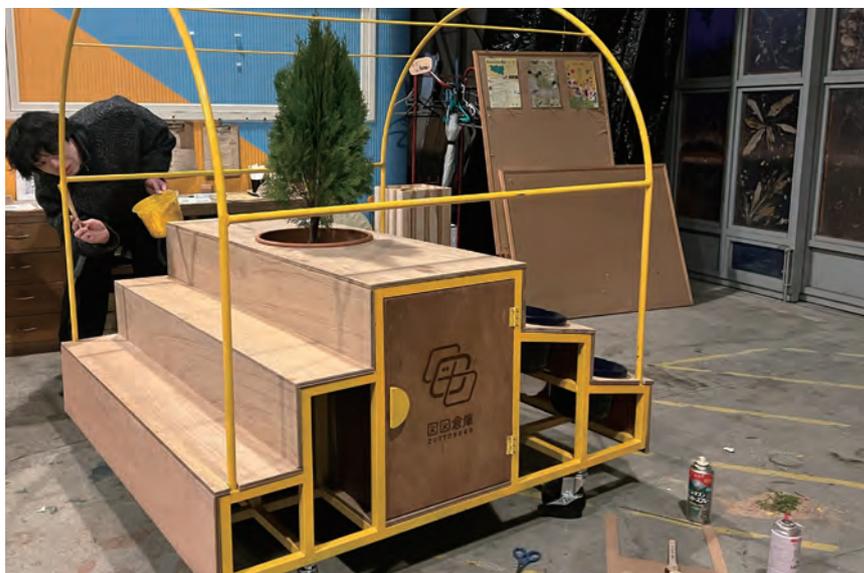
実施者 株式会社アール・エフ・エー

活動地域 飯舘村、南相馬市、浪江町、双葉町 ジャンル 建築



本プロジェクトは、変動する原発被災地における建築や場づくりの役割を問う取り組みとして企画しました。

小さな起業や場のコミュニティ活動をサポートする「台」(軽車両や移動式什器)を東京藝術大学の学生が中心となるチームが設計・制作することで、浜通りに新たな場のデザインネットワークを生み出すことを目的としています。



- 10～11月 台制作のペルソナ決定・リサーチ・設計
- 11～12月 滞在制作・現地の事業者とブラッシュアップ
- 12～1月 クリスマスマルシェほかイベント出店@東京都
- 3月中旬 台の展示イベント開催



事業の展望

今回制作した什器の地域イベントでの活用はもちろん、東京藝術大学や都内の美術大学が常磐線を活用しながら浜通りで大学の課題を共有できるような流れに繋げていければ、今後浜通りで芸術大学の学生の活動人口の増加に繋がっていくのではないかと考えている。学生たちが大学在学中から自ら地域社会に繋がりモノを創出する機会が増えていくことで、「浜通りに行けば面白い創作活動や地域づくりに参加ができる」というイメージを作っていきたい。

参加学生からの声

東京から公共交通で3時間かけて飯舘村の図図倉庫に通い制作しました。滞在中はホームセンターまで車で30分以上かかるなど、生活しやすい環境とは言えませんでした。しかし、その分地域の方々からの温かい協力が心強く、住民同士が助け合って生活している姿が印象的でした。便利ではない社会だからこそ、人と人との繋がり温かさを実感できました。お世話になった地域に私たちの痕跡となる作品を残せたことを嬉しく思い、今後の活用の可能性を楽しみにしています。

Artists in FUTABA 2024

実施者 合同会社 toten

活動地域 双葉町 ジャンル メディアアート、写真、インスタレーション、建築、演劇



Artists in FUTABA 2024 は、福島県双葉町を舞台に学生アーティストの制作・滞在、展示を支援するプログラムです。「五感」をテーマに、双葉町をさまざまな切り口で感じ、作品という形で表現してくれる学生アーティストを公募し、6組採択しました。学生アーティストにより、双葉町の新たな生活や文化、伝統を彩る作品を生み出しました。

9～10月 学生アーティストの集客と選考採択の連絡

10～11月 学生アーティストの制作支援準備・環境構築

10～11月 学生アーティストに対するキックオフ開催

10～1月 メンターによるメンタリング・滞在制作

1～2月 中間報告会・最終報告会開催 @双葉町各所



事業の展望

今後もアーティストインレジデンス事業と新規事業を相互に補完・連動させることで、双葉町の文化的資本を高めると同時に、その蓄積が地域経済や社会全般の発展を生み出す好循環を築くことを目指します。加えて、to B・to G 向けの企画設計事業と連携しながら、アーティスト・地域住民・企業・行政といった多様なステークホルダーが参画できるプラットフォームを強化することで、双葉町のみならず、浜通り全体における創造性向上や芸術・文化の発展に持続的に貢献していきたいです。

参加学生からの声

東京生まれ東京育ちの自分が生活をするために福島県をはじめとする、地方とその周辺住民の方々が原発事故リスクを背負っていることについて深く考えさせられました。また、双葉の景色は一度見ると忘れる事が出来ないような景色でした。ただの草が生い茂った地面に見える場所にも誰かの思い出が眠っているのだと思うと、その地面には無限の可能性と、記憶が宿っているのだと感じました。過去を忘れず、振り返ることでこそ今を捉えなおし、明るい未来を築く事ができるのでは無いかと思います。

鮭のぼり アートプロジェクト

実施者 福島大学芸術による地域創造研究所

活動地域 双葉町他 ジャンル 絵画、インスタレーション、メディアアート、デジタルアート



このプロジェクトは、生まれた川に「鮭」が産卵のために海から戻る習性や福島の自然に対する想いと重ねて、「鮭」をテーマとしたアートのぼりを制作する活動です。福島大学の学生が中心となり、子どもたちを中心に多くの方々と一緒に「鮭のぼり」を制作します。作品の展示や記録集、ポスターなども作成して、本事業の広い周知を目指しました。



10～11月 学生による作品制作
公募によるチラシ制作

11～1月 ワークショップによる
作品制作 (全12回)

1～3月 展示 (インスタレーション)
@双葉町伝承館

2～3月 記録集の作成

事業の展望

今回、「鮭」をテーマに「アートのぼり」を中心としたワークショップや展覧会を開催しましたが、地域の方々が「鮭」をはじめ、自然への愛着が非常に高いことが理解できました。そのため事前に想定していた以上に、多くの方々から要望も受け取り、地域との交流が大きく広がっていきました。すでに伝承館や浪江町での継続も要望されています。今後も双葉郡において「鮭」をキーワードに様々なアートの展開によって、経済や社会の発展に寄与していきたいです。



参加学生からの声

福島に縁深い鮭をモチーフにした「鮭のぼり」は多くの人々に元気と勇気を届けました。世界に一つだけの鮭のぼりが空間を自由に泳ぐ様子は圧巻で、見る人それぞれに感動を与えていました。子どもたちが白い鮭のぼりに思い思いの絵を描くワークショップでは、私も刺激を受けました。放課後に型を作った甲斐があったと感じています。これからも鮭アートのぼりを通して双葉や福島の海産物への関心を広げ、世界にも発信していきたいと思えます。

浪江学生デジタルアート道場

実施者 **ガッチ株式会社**

活動地域 **浪江町** ジャンル **インスタレーション, 映像, デジタルアート**



浪江学生デジタルアート道場は、“福島 × アート”で地域の未来を表現する滞在型プログラムです。会場となったのは、震災と原発事故の爪痕を残す「旧松永窯」。全国から集結した3組の学生アーティストが、浪江町でのさまざまな“出会い”からインスピレーションを受け、地域の記憶を紡ぐ新たなアート作品を生み出しました。

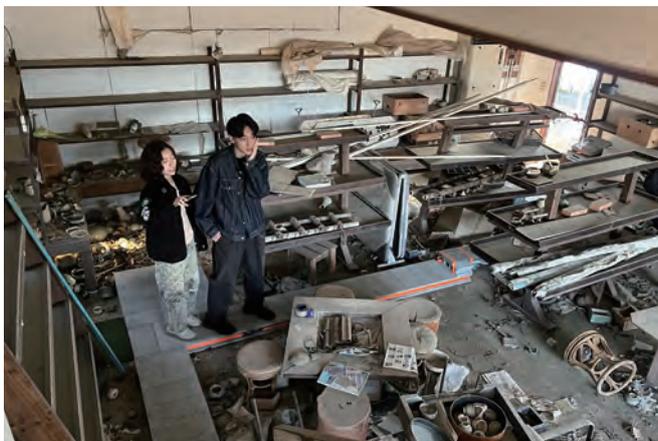


11~2月 作品制作

11月上旬 地域交流会・企画発表会の開催

12月上旬 中間発表会の開催

2月上旬 作品展示・トークイベントの開催



事業の展望

本活動を通じて、旧松永窯が地域のアート拠点を目指す土台づくりができました。今後は、地域内外のアーティストや学生が協働できる場を拡充させ、文化的資本の蓄積を進めることを目指しています。具体的には、常設のアート拠点を設置し、地域住民と外部のアーティストが継続的に交流できる環境を整備していきたいです。

また、地域住民を対象にアートの知識を学ぶ授業を開くことで、アート作品への興味関心が高まり、地域とアートの結びつきが深まると考えています。

参加学生からの声

様々なコミュニティがあり、そこで活発に活動している人々と、食事やイベントなどを通して沢山交流できたことが何よりも印象に残っています。そうした印象は、いわゆる被災地の印象とは対照的なものでした。良いことも悪いことも含めた生の声を用いて、インタラクティブな作品にしたことで、会場で多くの方と意見や感想を交わすことができました。作品制作と交流を通して、意図せず浪江の未来像が浮かび上がってきたことは、とても価値のあることでした。

土地の時間をめぐる滞在制作事業

実施者 秋元菜々美

活動地域 富岡町 ジャンル 建築・映像・演劇 / 演劇・文芸



本プロジェクトは地域住民とアーティストが「土地の時間」を横断的に共に思考することを目的に実施しました。建築集団ガラージュは「ナラティブの交差点」、夜の森地区での「上演が起きる場の設計」に向けたリサーチを行い、パフォーマンスユニット humunus は、土地の物語を編んだ書籍制作を行いました。書籍は、2025年5月以降、販売をしています。



【ガラージュ活動】

11~
2月 役場都市整備課と会議
地域住民への取材

2月
月上旬 夜の森まちづくり塾
リサーチ報告イベントの開催

【humunus 活動】

10~
2月 リサーチと執筆
地元事業者との連携

2月
月上旬 トークイベントの開催
@富岡町月の下アートセンター



事業の展望

ガラージュの活動では、今回の作品が地域に反映されるよう、行政や地域住民との連携を一層深めながら制作することで、作品が地域の産業・まちづくり・コミュニティ発展に寄与していくことを目的としています。humunus が制作した作品とツアーパフォーマンスは、地域の観光分野でも活用できるコンテンツにすべく検討します。このように継続的に文化的コンテンツを生み出すことで、観光事業者の商品開発がシリーズとして展開できれば、より大きな波及効果が期待できると考えています。

参加アーティストからの声

作品制作を通じて、地域の皆さんが「街のアイデンティティの喪失」に対する焦燥感を抱いていることを感じました。「土地の時間を巡る滞在制作事業」という本企画の性質が地域からの共感を得られた要因だと思います。同時に、過去に固執するだけでなく、新たな可能性を示す作品が生まれたことで、芸術の想像 / 創造力をより発揮できました。こうした作品制作と地域ならではの協働が続くことで、住民一人ひとりのクリエイティビティ向上に貢献できると実感しています。

[Dear KAWAMATA]

実施者 松本律子

活動地域 川俣町 ジャンル 音楽



川俣町にお住まいのみなさまのお話や、町の音（機織りの音、時を告げるミュージックチャイムや、“パンカパンカ”の音や、“コスキン”や除夜の鐘など）を録音し、それらに着想を得て、さらに楽音（マリンバ、打楽器、電子音）を重ね、13 曲をつくりました。音楽配信にて世界中のリスナーに届け、川俣の名を世界へ発信します。

- 10月 下旬 初めましてコンサートの開催
- 10~12月 声と音の収録会 (川俣町内の各地区)
- 12~1月 音の収録会 (除夜の鐘、年越しの音)
- 1月 下旬 音源ミックス
- 1~2月 「お礼のつどい “Dear KAWAMATA” 完成を祝して」



事業の展望

事業が終わった翌週収録にご協力いただいた「民話の会」のみなさまと地域の「新春の集い」で語りとマリンバを共演。「女神山を愛する会」会長から 3 月上旬のイベントで「Dear KAWAMATA」をみんなに聞いてもらいたいから流しても良いかのご連絡をいただく。川俣町の Web サイトにある素晴らしい民話のアーカイブ、川俣町での音楽イベントへの参加など、今回いただいたご縁から、音楽を通したコミュニケーションはまだまだ続くと確認しています。

参加アーティストからの声

めざましいコンピューターの発達でどんなに便利な世の中になっても、やはり最後に人の心に残るのは、人が自分の足で歩いた軌跡であり、想いだということを感じました。音楽でお腹が満たされる事はないけれど、心が満たされる事によって社会が動くのかなと。地域の方々にいただいた言葉（アルバム [Dear KAWAMATA]- 福田の里 -）「制覇するんじゃなくて ありがたいって思う気持ち」ここにすべてが集約されています。関わってくださったすべてのみなさまに感謝しています。

Dialogues between Winds and Books:風と書の対話記

実施者 国立大学法人東京大学大学院情報学環 開沼博研究室

活動地域 12市町村全域 ジャンル 映像インスタレーション・写真・フィールドレコーディング



福島の人々が日々をどう生き、どのような未来を思い描いているのかを、視覚的 / 聴覚的 / 文学的なアプローチを通じて探り、そのリアルな姿を国内外に伝えることを目的に実施しました。エッセイ、写真、音というメディアの融合により、これまで描かれなかった福島が持つ力強さと再生への希望を描き出し、地域文化の新たな価値の発見を目指します。

- 10月 プロジェクトキックオフミーティング
- 11月下旬 現地取材・撮影開始
- 12月 現地取材・撮影音源収集の続行
- 1月 取材完了と中間レビュー
- 3月 展示会



事業の展望

この活動の成果をより多くの人に届けるために、出版を通じて国内外へ発信していきます。初沢亜利の写真を中心に、中江有里が執筆したエッセイ、開沼博研究室が記録した音を組み合わせ、福島の今を世界に伝えるメディアとして活用します。翻訳出版や国際展示の可能性を模索し、福島の現状を世界に伝えることで、新たな対話を生み出し、地域文化の価値を再評価する契機としたいです。より多くの人々が関与しやすい形で、福島の文化と人々の物語を発信し続けることが、今後の大きな目標です。

参加アーティストからの声

これまでそれなりに地域の方々との交流をしてきたものの、このプロジェクトだからこそ新しいつながりができたり、これまでにはなかったコミュニケーションの機会が生まれたりしました。福島に関心をもっているけども、どう接点を持たばよいのかわからないという人に今回ご協力等のお声がけをできたこともあります。貴重な機会を頂けたと思っています。

アーティストインレジデンシ

実施者 川口商店

活動地域 南相馬市 ジャンル 現代美術、環境アート、イラストレーション、壁画、絵本



このプロジェクトは、南相馬市にある発達し続けるサウナ「サウナ発達」を拠点に行いました。地域の廃棄物を活用し、持続可能な社会を目指す新しいアプローチの提案に向け、2名の芸術家とともに、地域の廃材や漂着物を収集、それらを再利用した神社制作（酒井貴史さん）、地域の歴史や文化を反映した壁画・絵本制作（永畑智大さん）を行いました。

11月
中旬

学生リーダーズ
ワークショップ開催

11月
下旬

バンドで簡単棚づくり

12月
中旬

ワールドおさがりセンター展示
(せんだいリポートイベント内)

1月
中旬

「おみくじをつくろう」
ワークショップ開催

2月
月上旬

神社御開帳展示会開催



事業の展望

浜通りは震災と原発事故という大きな喪失を経験しながらも「再生」への道を進んできました。「捨てること」が過去との決別ではなく、「新たな価値を生み出す行為」として昇華されることで、浜通りの文化的・経済的な発展に貢献したいです。今後は神社発達を軸に、「捨てる文化」から生まれる創造性を地域の文化的資本とし、それが社会や経済の活性化につながることを目指します。このプロセスを通じて、浜通りが「過去を手放し、未来を創る」場となり、創造的な人々が集まる拠点となることを願っています。

参加アーティストからの声

多くの人にとって「捨てる」はネガティブな行為に思われがちですが、神社発達では「捨てる＝新しい自分を生み出す行為」として提示しました。参加者は「何を、なぜ捨てるのか」を考え、それを神社に捧げることで、「捨てたものが未来につながる」という感覚を得たのではないかと思います。この神社は、覚悟や決意が形になった場所であり、誰かが手放したギターや思い出の品、固定観念が集まり、新たな場を生み出しました。「捨てる」ことが空間そのものを形作る体験となったことが嬉しいです。

旅するたたき場 in 檜葉町 即興演劇の上演と WS 事業

実施者 旅するたたき場

活動地域 檜葉町 ジャンル 即興演劇、音楽、朗読、複合芸術



このプロジェクトでは、檜葉町で複数回ワークショップを実施し、最終的な公演において参加者に舞台芸術は非日常的な体験であると同時に、食事等の生活と地続きにあることを、体験していただきました。都市と町、過去と未来、ソトの人とウチの人が混ざり合い、檜葉町の雄大な自然とともに流れるゆるやかな時間の中で日常と非日常が共存する作品を展開しました。



10~2月 現地リサーチ・ミーティング

12~2月 WS5 回開催 (音楽とお芝居・読書・檜葉の民話・物語の工作)

2月上旬 最終公演檜葉町の旅物語「まだ決まってない、」開催



事業の展望

今回の活動を通じて地域の方々の「鑑賞への慣れ」のようなものを育むことができた実感しています。今後も浜通り地域を横断的に旅していくことで「鑑賞する」「参加する」という文化そのものが根付き、ネットワークができることを目指していきたいです。芸術的なものを持たない方々の関心を広げるために「歴史」や「食事」という普遍的な側面からのアプローチを重視したい。また、私たちの活動を通じて外からのアーティストが地域に訪れるきっかけを作りたいです。

参加アーティストからの声

地域の中で既に活動を行なっている人たちの邪魔にならないようにしなければ、その場の自律的な発展には不可欠だと考えました。私のスタイルは地域に何かを根付かせるというよりも、新しいものに触れる喜びを提供することだと感じています。地域の営みを私たちが応援する立場でなければ、アーティストのエゴが一方的に投下されてしまう危険があると、これまでの地域アートを通じて感じてきましたが、今回の滞在でその思いをより強くしました。

震災復興の「いま」をきりとる

実施者 一般社団法人とおがったプロジェクト

活動地域 福島県葛尾村、双葉町、浪江町
宮城県蔵王町、亶理町、山元町

ジャンル インスタレーション、映像、音楽



宮城県のアーティストインレジデンスとおがったプロジェクトのアーティストが葛尾村・双葉町・浪江町を拠点に活動しました。私たちが東日本大震災の発生時、最初にとった行動こそ「誰かとよりそう」ことでした。今回は「よりそう」をテーマに、3人のアーティストが各地をリサーチし、地域に入り込み、各々の独自の解釈で作品を仕上げました。



11月 プレ・リサーチ

12月 AIR 滞在制作@葛尾村ほか
(葛尾村を拠点に比較リサーチ)

1月 中旬 AIR 成果展
@葛尾村復興交流館あぜりあ

1月 中旬 AIR 成果展
@仙台市ギャラリーチフリグリ

1~2月 AIR 成果展
@東京都墨田うちらの居間分館



事業の展望

今回、実際に現地でのリサーチ活動を行ったことで、現地での新しい関係性を構築することが出来ました。特に、最もお世話になった葛尾村とは Katsurao Collective を起点として、行政や地域の方々と多岐にわたるチャンネルを形成できた為、通常の AIR の枠組みの中でも何かしら協力しながらアートワークを行うことが出来ると感じています。今回の事業を山形にまで広げ、まずは南東北での共有化と東京のアウトリーチという形で、よりブラッシュアップし、事業を継続していきたいです。

参加アーティストからの声

福島県葛尾村へ約 3 週間滞在し、「葛尾焼きを考える」をテーマに作品を制作し、葛尾村の文化や風土を深掘りしていく作業を行いました。その結果、葛尾村が持っている汚染土の問題や人口の問題など、様々な状況を知る機会となったと思います。地域の方々にはとても親切に接して頂き、過ごしやすい地域性でした。現在はいろいろな地域へ伺うことも多くあるので、福島県の情報が少ない方々へ福島県の今を伝えていくことができたらと考えています。

葛尾村の百徳

実施者 チーム百徳

活動地域 葛尾村

ジャンル 現代アート、工芸



葛尾村で地域の布を集めて、地域の人たちと一緒に縫い繋ぐ百徳ワークショップを開催しました。布を地域の人からもらい受ける過程、そして布を縫い繋げる作業の中で、たくさんの方の協力を受け、対話の場を生み出します。また、完成した「葛尾村の百徳着物」は、「かつらお公民館まつり」でも展示いたしました。



10月 滞在制作
百徳ワークショップ開催

11月 滞在制作「2024 かつらお恵みの感謝祭」に出展参加

12月 イベント
「PetitMOA」開催@東京都

1月 滞在制作
百徳ワークショップ開催

3月 イベント「スナック百徳」開催
かつらお公民館まつり出店



事業の展望

福島12市町村全体での百徳ワークショップ開催と百徳着物制作を実現したいです。また地域滞在の記録を画集として出版し、世界へ向けた記録を残したいと考えています。特に完成した百徳着物、百徳着物を作るプロセスで生まれる様々な価値を記録し発信することを目指し、今後は葛尾村を拠点に12市町村の百徳を続けていくことを考えています。上記のような活動を通じて、「百徳」という一時は途絶えてしまった日本の文化の継承、そして復興の一端を担っていきたいです。

参加アーティストからの声

チームでアートに向き合えたのは、大変いい経験になりました。移動して普段の活動から離れて色々な障害をのりこえ、その汗の後に向かう村の人々の優しさ、出会い、絆が一つずつ繋がり、また新しいアートへの意欲が湧き上がるとともに村の人々との交流の大切さを感じました。また野菜を沢山貰った経験が大きいです。このロードムービーの様な経験を、この村を知らない人々にも伝えたい、そんな気持ちが湧き上がってきました。アートを通してこのような経験が出来るのは大きかったです。

コレクティブ・イメージ

実施者 折田千秋

活動地域 浪江町、葛尾村

ジャンル 絵画、写真、メディアアート



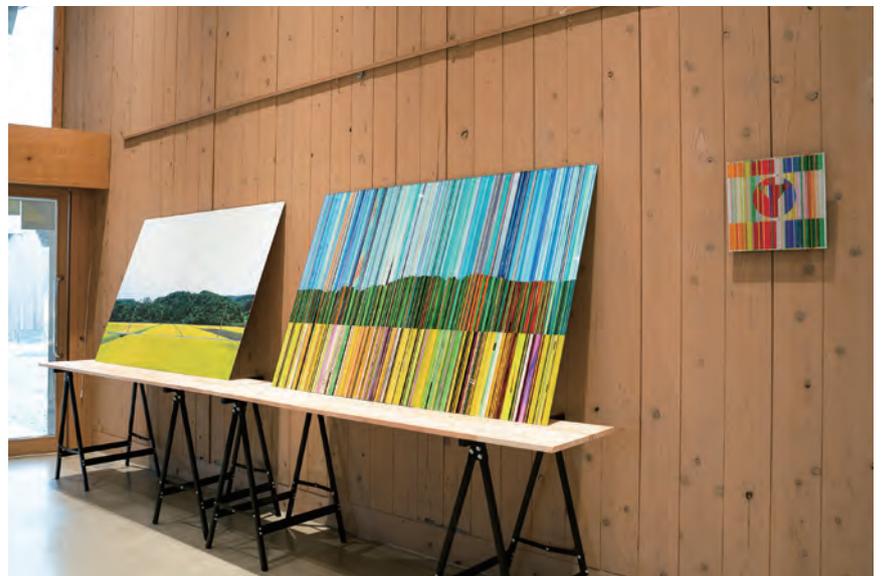
2019年から進めている地域での芸術実践「コレクティブ・イメージ」は地域の人々と協力して風景を再発見・再認識する活動です。住民が風景の印象色を選び、それをもとにデジタルで風景を再構築することで、地域ごとの唯一無二の風景が生まれます。浪江町と葛尾村の風景とスーパーのロゴを対象に制作しました。

10月上旬 リサーチ活動@浪江町・葛尾村

11月上旬 ワークショップの開催
@浪江町・葛尾村

11~1月 作品制作

1月 展覧会の開催



事業の展望

今回の事業である「コレクティブ・イメージ」は、さまざまな地域で行うことができます。できるだけ多くの地域の風景をテーマにし、地域の風景の再考・再認識を行なっていきたいと思い、浜通りの別の地域でもこの活動を行う展望を考えています。この取り組みが持つ現在の何気ない日常やそうであったものの記憶や体験をアーカイブする役割により、流れゆく当たり前の日々を後世に残していける手段として、その有用性の確からしさを実践・検証していきたいです。

参加アーティストからの声

ワークショップ中、地域の方々と浪江町や葛尾村の昔話やご自身の考えなど、さまざまなお話を交わしました。それを聞く時間も楽しく、作品にその記憶や思いを“色”として反映できたことに満足しています。また、展覧会やトークイベントでは来場者の多様な意見にも触れることができ、貴重な経験となりました。面白い、他の人の見え方ってすごいね、もっと地域の人に見てもらったほうが良いのでは？、この風景を改めて考えさせられた、など、これからの自身の活動の指針となるような言葉もいただきました。

「まいにちの舞台」プロジェクト

実施者 久留飛雄己

活動地域 12 市町村全域

ジャンル グラフィックデザイン、コミュニティデザイン



「誰かの日常は、誰かの非日常になりうる」をテーマに、福島 12 市町村でそれぞれの想いを持って拠点運営している方から土地や建物の歩み、今の暮らしや未来について考えていることをお聞きしました。そこからみえた風景を写真と共に 1 冊に詰め、皆さんと福島がつながるきっかけを作ります。Web 版も公開しておりますのでぜひご覧ください。

- 11~1月 「まいにちの舞台 No.2」掲載拠点への取材
- 11月中旬 編集作業開始
- 2月上旬 「まいにちの舞台 No.1 増刷版 / No.2」完成
- 2月上旬 「まいにちの舞台」完成交流イベント@東京都
- 3月頃 「まいにちの舞台 Web 版」一般リリース



事業の展望

今後は、今回制作した冊子の配布および、web により 12 市町村の魅力発信を広域的かつ継続的に実行予定です。取材のみで終わらず継続的にプロジェクトが各拠点の皆さまとの関係性を維持できるよう、12 市町村での活動人口を増やすための「冊子活用プロジェクト」を実施予定です。12 市町村に関心の高い北千住コミュニティをターゲットに実際に 12 市町村の取材対象拠点と首都圏コミュニティが交流できるプログラムを計画しています。

参加アーティストからの声

昨年、「どんな創作活動ができるだろう」と思い 12 市町村を訪れ、すでに多くの方や場所が活動していることを知りました。自分が創作するより、この地の営みを深く知り、多くの人と共有したいと感じました。そうして出会った想いや未来への展望を 1 冊の形にまとめた昨年度の取り組みを、今年度も継続できたことは大きな意味がありました。東京都足立区を拠点とする私にとって、これは大きな学びであり、創作における「続けること」の喜びと難しさを今後も観測し、外に伝えていける関係を築きたいです。

福島県 12 市町村ロケ映画プロジェクト 川内村編 ～映画制作 & ワークショップ～

実施者 シネマ健康会

活動地域 川内村

ジャンル 映画



川内村の方々への取材を丁寧に行い、その時その場所で生まれる映画を村の人々と共に作り上げました。企画から撮影、上映までを一貫して行い、川内村の風景や特色、生きる人々を映画としてパッケージする事によって、川内村の魅力を発信する映画に仕上がっています。完成した映画『Day Bye Day』は川内村にて先行で試写上映しました。



10月
下旬 リサーチ活動

11月
月上旬 ワークショップ開催
(映画撮影体験、交流会開催)

11月
月上旬 過去に制作した
映画の上映、交流会開催

12月
月上旬 映画撮影

2月
月上旬 試写上映会開催@川内村



事業の展望

今回制作した映画をより多くの方に届けるため、まずは国内外の映画祭への出品予定です。その後、浜通りを含む日本各地で劇場公開を行います。浜通りでは、イベント上映など幅広い形で上映を行いたいと考えています。オール川内村ロケ映画が多くの人に目につくことで、川内村への注目が高まり、観光客の増加にもつながると考えています。また、川内村でのアート制作の熱意を絶やさず、第2弾の映画制作につなげ、相乗効果で川内村や浜通りの発展に寄与していきたいです。

参加アーティストからの声

川内村に滞在し、取材やワークショップ、撮影、上映を通じて、村の方々とお会いする機会が沢山ありました。そこでの出会いは私にとって貴重なものとなり、財産となっております。また2月の試写会の際に村の方々からサプライズでお花をいただきました。それはとても印象に残っていますし、その喜びをいつまでも忘れずに、自分の得意分野である映画を通じて今後も関わっていければなと思っています。これがスタートだと思っています。

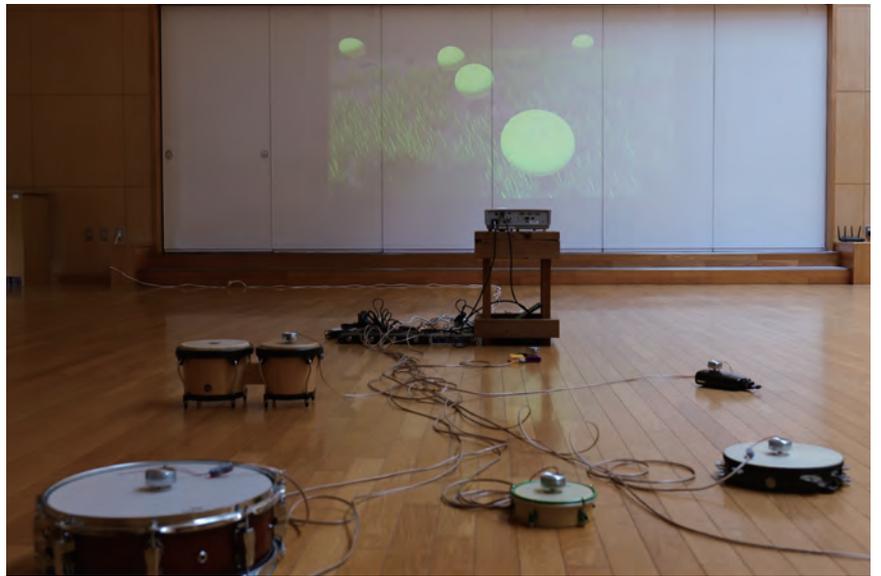
人工知能を用いた映像と 楽器自動演奏装置の展示

実施者 大久保雅基

活動地域 田村市 ジャンル インスタレーション、音楽、メディアアート、デジタルアート



田村市エリアをリサーチし、この地域の魅力を引き出した作品を作りました。地域の方々に操作していただいたデータを人工知能に学習させ、自動で二足歩行するカブトムシを制作。カブトムシがオリオン座の位置にあるボールに触れると、対応する位置に置かれた実際の楽器が演奏されるものです。本作品を通じて、ぜひ田村市の魅力を感じてください。

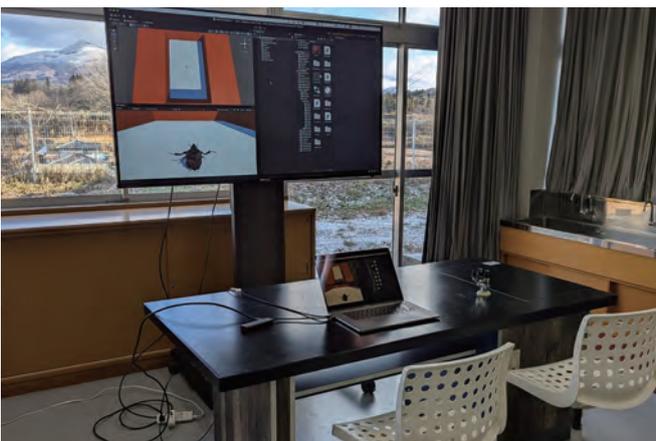


12月上旬 リサーチ活動
@田村市および周辺地域

12月下旬 地域の方々が
参加できる制作体験会の実施

1月 作品制作

1月下旬 展示会の開催



事業の展望

本事業を通じて、アートイベントが活発でない地域における集客の難しさを実感しました。地域の方にとって「アートを鑑賞しに行く」という行為自体が生活の選択肢にあまりなく、関心の対象になりにくかったと想像されます。こうした地域でアートイベントを行うには、個展のような単発イベントではなく、地域のお祭りや行事と連携し、日常の中に自然に取り込む形が望ましいと感じました。今後は、地域の既存イベントとの協働を意識しながら、アートを通じて地域に創造性を育むことを目指していきます。

参加アーティストからの声

田村市エリアはアートイベントが行われることが殆どなく、その中でも来て頂いた地域の方々は、本事業のようなメディアアートを観て「自分でも動かせると良いね」と言われる方が多く居たのが印象的でした。芸術に理解がある人からすれば、芸術というものはそこに意図・設計されていることを読み解くものという前提がありますが、地域の方々は自分が参加したいという気持ちを持っていました。今後鑑賞者が参加できるという形で作品を考えるのも良いのではないかと思います。

ロッコク・キッチン

実施者 株式会社植田印刷所

活動地域 双葉郡全域、南相馬市 ジャンル インスタレーション、映画



このプロジェクトでは、川内有緒（ノンフィクション作家）と三好大輔（映画監督）が、福島県内の太平洋側を通る国道6号線（通称ロッコク）沿いの地域を旅しながら、そこに住む人々の「食」「キッチン」を切り口に暮らしを紐解き、書籍とドキュメンタリー映画を制作しています。2023年に始動し、2025年中の完成に向け制作しています。



9~11月 撮影・執筆・ホームビデオ公募

11月上旬 ホームビデオ映像公募イベント @ 浪江町道の駅なみえ

12~1月 撮影・執筆・映像編集

12月中旬 ホームビデオ映像公募 & 展示イベント @ 浪江町道の駅なみえ

1月下旬 インスタレーション上映イベント @ 南相馬市



事業の展望

「ロッコク・キッチン」プロジェクトとしては、今後も長編ドキュメンタリー映画の完成&上映、長編書籍の出版に向け2025年度は継続して活動を行なっていきます。プロジェクトを数年継続していることもあり、地域内外での認知度の高まりを感じており、その状況を今後も続けるべく、映画・書籍の完成に関わらず、プロジェクトを傘とした派生企画の展開（ポップアップ出店、音声メディアの立ち上げ）も視野に入れ、活動を続けていきたいと考えています。

参加アーティストからの声

大熊町や双葉町あたりに暮らしている人たちは何を食べてどんな暮らしをしているんだろう。福島に通いながら、ホームムービーを探しました。集まった映像は、盆踊りや地域のお祭りや子育てなど、当たり前が広がってます。戻ることができない故郷を前に、復興とは何か、現地に通いながらその答えは今だに出ていません。ただ一つ言えるのであれば、その土地に暮らしている人たちに出会うこと。ロッコク・キッチンでは、福島の今を映画を通して全国に発信していきたいと考えています。

映画『そこにあるべきものたち』 浜通り縦断試写上映会

実施者 株式会社ベーシックシネマ

活動地域 南相馬市、浪江町、いわき市 ジャンル 映画



福島県浪江町請戸地区に再建された茗野神社。再建される神社の様子を描くと共に、その再建に関わる元請戸住民たちの声を綴ったドキュメンタリー映画『そこにあるべきものたち』を制作、浜通り各地（浪江町・南相馬市・いわき市）で上映しました。その時、その場所、その都度、記録することの大切さ、そして、伝えていく大切さを感じた時間です。

10月 宣伝活動

11月 奉納試写上映会
中旬 @浪江町 茗野神社の境内

12月 試写上映会@南相馬市・朝日座
中旬

1月 試写上映会
中旬 @いわき市・まちポれいわき



事業の展望

とても嬉しいことがありました。映画『そこにあるべきものたち』を手伝ってくれた浪江町在住のカメラマンから「自分も野馬追の映画を作ります!」と言ってくれたことです。今は連絡を頻繁にいただき、浜通りに行けば会い、映画の構成や完成後の映画の在り方などを話しています。私が制作した映画は「浪江町請戸地区」の映画ですが、次は「浪江町全体の映画」を作りたい、という思いも生まれてきています。この2年間で繋がった方々と一緒に、次が作れないか、模索しています。

参加アーティストからの声

自分の人生に大きく関わってしまった東日本大震災。この映画は誰かではなく、自分自身のために制作したものでした。しかし「この映画が残ることで請戸が残っていく」「50年後も100年後も請戸で観られ続ける映画」といった言葉をいただくことで、結果的に地元で根ざした作品に仕上がっていることに気づき、驚きました。「一人の人間に届く映画」として、請戸の人々に喜んでもらえることが嬉しいです。無心で作品を作ることの大切さを実感し、出演者や浜通りの方々との掛けがえのないご縁に感謝です。

Summary

ハマカルアートプロジェクトの実施にあたり、各分野の専門家の方々に関わっていただきました。今回はそれぞれの方々に今年度の講評とともにハマカルの今後に対する期待を伺いました。



AIR Lab
菅野 幸子さん

ハマカル・アートプロジェクトは、今年度で2年目を迎えましたが、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故による未曾有の災害で傷ついた地を、文化芸術を通じて再生するという、実に困難なミッションを負ったプロジェクトです。しかし、このプロジェクトに関わる経産省の福島芸術文化支援室のスタッフたち、事務局の Wasshoi Lab のスタッフたち、事業を請け負った事業者たち、参加したアーティストたち、そして地域の方々の5者がそれぞれの思いを抱え地域の課題に立ち向かいながら、全員で育ててきている稀有なプロジェクトになってきたと感じています。簡単には解決できない課題は山積しているものの、こうした若いエネルギーが地域や日本の未来を支える力となっていくことを今後も期待しています。



KatsuraoCollective
森 健太郎さん

地域の豊かさとは、ある種の未完成だったり未熟な状況を否定せず、むしろ肯定することから生まれるものだと思います。浜通りの市町村は、震災をきっかけにさまざまな社会問題を背負うこととなりました。この地で行われるアート活動は、社会の期待に応えることが目的になりがちですが、ハマカルアートプロジェクトで活動するアーティストたちは、これからも自らのモチベーションを原動力にしてプロジェクトを推進してほしいと願います。きっとこれらの活動が、5年後、10年後の未来に、地域に大きな影響を与えていくことでしょう。浜通りという場所が、豊かな創造性を育む場となっていくことを心から願っています。



合同会社白A
菱沼 勇二さん

今回のプロジェクトを通じて、アートによる賑わい創出の「振れ」を感じました。本来、アートは自己表現が強く、狭義的になりがちですが、本事業はアートに関心のない人々を巻き込み、地域に新たな価値と交流を生み出そうとしています。その中で、表現の純度と開かれた参加性のバランスを取る難しさも浮かび上がりました。今後、当事業が続くのなら、参加アーティストは地域ならではの表現を追求しながら、より多くの人に関われる仕掛けを生み出すことが求められます。



公益財団法人セゾン文化財団
稲村 太郎 さん

東日本大震災以降、福島では多くのアート活動が行われてきました。そのため、「なぜ今、このプロジェクトなのか？」と疑問を抱く人もいるかもしれません。現在、帰宅困難地域の解除や復興計画が進む中、ハマカルアートプロジェクトでは、文化や芸術を通じて人々のつながりを生み出し、地域の結びつきを深めるアートプロジェクトが数多く展開されています。この活動の魅力は、地域の人々と協力しながら進めることで、世代やバックグラウンドを超えた交流が生まれる点です。アートを介した対話や共同作業が、人々の間に新たなつながりを生み、地域の活気を取り戻すきっかけとなっています。本プロジェクトに関わった人々が、地域の文化や芸術の新たな担い手となることで、地域コミュニティの再生や持続的な発展につながることを期待しています。



女子美術大学
日沼 禎子 さん

2024年度の事業は、過去の実績例と比べ、多様な表現となり、また、地域との関係性、プロセスを重視したプログラムが展開され、参加学生にとっては表現活動をとおり、地域性や公共性について考察、経験することで、近い将来、表現者としての持続性へのヒント、あるいは公益性のある活動に対する興味を得る機会となったのではないのでしょうか。ただし、事業成果や評価をするためには、今後の継続と、地域との長期的な関係性づくりやフィードバック、専門領域からの客観的な評価を重ねていくことが必要でしょう。また、課題として、事業のねらいと成果について域外へ周知・広報するための各事業者個別ではなく、ハマカル全体の戦略が必要です。



一般社団法人
コミュニティシネマセンター
岩崎 ゆう子 さん

2年連続で行われた映画作品を通じて、アーティストと地域の人々との信頼関係を感じ取ることができました。ハマカルアートプロジェクトが芸術家が一定期間滞在し、創造活動を行い、地域内外の人々の対話や交流を生み出すことを目的としていることを考えると、複数年度で実施するような仕組みも良いのではないのでしょうか。ハマカルアートプロジェクトは、大前提として、福島浜通りという東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴って避難指示等の対象となった12市町村を対象地域としているということがあります。この場で行う必然性のようなものを感じることを期待したいです。

ハマカルアートプロジェクト2024 アーカイブ集

2025/03/31 発行

取材・編集 株式会社 Wasshoi Lab

デザイン Ichido 株式会社

監修 菅野 幸子、森 健太郎